

# 中国人学習者が求める日本語教師像

— マインド・マップ調査に基づく考察 —

林 伸一・衛 蕾

## 1. はじめに

2009年8月13日付けのシンガポールの『聯合早報』によると、日本政府が推し進めている「留学生30万人計画」により、中国では日本留学が大ブームとなっているとのことである。2008年に福田康夫首相（当時）が提唱した「留学生30万人計画」は、国際競争力の向上と優秀な人材の確保を目的に策定されたとされる。これにより厳格な日本の入国手続きや教育機関の受け入れ体制などが見直されることになり、この政策に最も敏感に反応したのが中国で、日本留学ブームが起きているという。

法務省入国管理局の統計によると、2007年の中国人留学生は8万5905人で、留学生全体の64.9%、中国人就学生は2万2094人で就学生全体の57.9%を占めている。今後、「留学」のビザと「就学」のビザを一本化する方向であるが、2007年時点で中国人の留学生と就学生を合わせると10万人を超えている。

1980年代に中曽根康弘首相（当時）によって提唱された「留学生10万人計画」は、当時約1万人しかいなかった外国人留学生を21世紀初頭までに10万人に増やすことを目的に策定された。2003年に「留学生10万人計画」が達成された。当時、学費や生活費捻出に苦しむ中国人留学生による犯罪が多発し、大きな社会問題に発展した。このため「留学生30万人計画」に対しては、日本語教育関係者の中から、危惧や懸念の声が聞かれる。大学においても留学生の教育面、心理面、生活面を支援する体制が十分に整備されているとは言えない状態にあり、戸惑いや躊躇する関係者も多い。「留学生30万人計画」といういわば国策に対する批判はあろうが、広い視野に立って日本の国際化あるいは日本の大学の国際化に対する手だてを講ずる必要はあるだろう。

外国人に対する日本語教師は、様々な国民性、民族性、異なる文化的背景を持つ学習者を相手にしながら絶えず自己変革をせまられ、自己訓練や自己研鑽が必要とされる。中国は、日本の隣国であり、同じ漢字文化圏に属することから、意思疎通も容易であると思われがちである。しかし、国民性、民族性、文化的背景、教育制度が異なり、摩擦が起きることもしばしばである。中国人学習者が求める日本語教師像を日本人の描く日本語教師像と対比することにより、予想される教育場面での摩擦を少なくすることができれば幸いである。

## 2. 先行研究

縫部（2008）は、日本語教師像に関して、アジアとオセアニア地域における初等・中等教育段階の日本語教師455名を対象に、どのような教師が望ましいと思っているのか、教師はどのような専門性や力量を身につけておくべきなのか、行動特性という観点から調査した。また、柳（2008）は、在日留学生・就学生の生活評価について中国人学生を対象に調査している。本稿では、縫部（2008）の調査結果を参照しながら、独自のマインド・マップ調査を実施し、得られたデータを分析し、中国人留学生が求める日本語教師像について探りたい。

## 3. 「いい日本語教師」のマインド・マップ調査

本稿では、中国人学習者が求める日本語教師像を探るためにトニー・ブザン（Tony Buzan, 1993=1996）によるマインド・マップ(mind map)を用いてアンケート調査を行った。トニー・ブザン（1993=1996）は「マインド・マップとは『心の地図』の意味であり、もっと厳密に言えば『頭脳の地図を描く』ということである」と定義している。具体的には、一枚の紙の中心に、テーマ（あるいはアイデア）を描いて、それに関連するさまざまな情報や発想やアイデアを、枝を伸ばすように、放射状に次々と描（書）いていくという方法をとる。「いい日本語教師とは？」を中心テーマにして、線の先に思いつく言葉や表現を書き入れる形でアンケート調査を実施した（図1参照）。

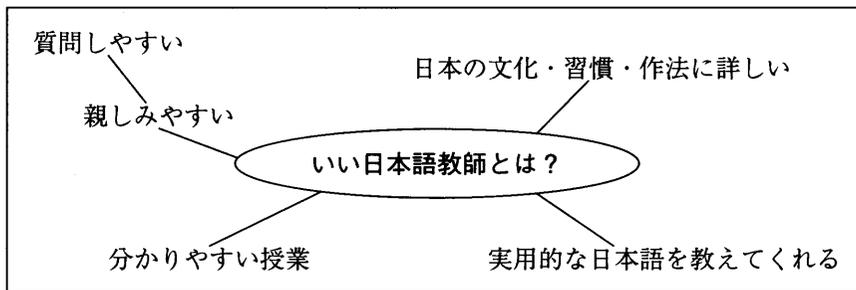


図1. 「いい日本語教師」を中心概念としたマインドマップ（日本・20代・女性）

陳（2009）は、中日同形語「先生」を中心概念にして、その意味機能の異同分析のためにマインド・マップ調査法を用いている。許（2009）も中国と日本の文化イメージの差異の比較研究の中で、マインド・マップ調査法を利用している。佐々木（2008）も中国と日本の「鬼」についてのイメージの差異を研究するために同調査法を採用している。

2009年5月－6月に、山口大学、名古屋大学及び九州の専門学校の中国人学習者（10－30代）53名と山口大学で専門科目として日本語を履修している大学生（10－20代）

100名及び日本語ボランティア養成講座参加者の社会人（30-70代）25名にアンケート調査〈別添資料〉を行った。本稿では、「いい日本語教師」アンケート集計結果から、中国人学習者のニーズに応じる望ましい日本語教師像を探りたい。特に中国人学習者に焦点化したのは、全国の大学で中国人学習者の占める割合が6割以上になっているからである。多数を占める中国人学習者と日本人がそれぞれ求める日本語教師像の差異を検討した。

以下に具体的なアンケート回答者の内訳と調査結果及び分析を示す。

### 3-1. 「いい日本語教師」アンケート調査結果

#### 3-1-1. アンケート回答者の内訳

<表1> 国籍内訳（単位：名）

日本人	中国人	合計
125	53	178

<表2> 性別内訳（単位：名）

女性	男性	合計
144	34	178

中国人学習者（10-30代）の回答者は、女性38名、男性15名、合計53名である。日本人（10-70代）の回答者は、女性106名、男性19名、合計125名である。

- 注：(1) 【 】内は出現度数、【 】のないものは出現度数1を表す。「実数」はコードごとの出現度数、「比率」は各カテゴリーの総件数に対する実数の百分率(%)を表す。なお、具体的な回答内容としては、紙幅の関係から、全ての回答内容を挙げられなかった。出現度数の高い内容を示して、省略部分は「…」で示す。
- (2) 次に示す表のように、中央には各コード名を示し、コードの枠を分界線として、左側は「中国人学習者」の回答で、右側は「日本人」の回答を対照的に示した。また、各カテゴリーの出現件数を表の一番下の欄に示した。
- (3) 基本としては、コードと表の並び方は、中国人学習者の回答数を基準として出現件数の多い順に並べた。従って、コードごとに対比的に表にしたために、日本人の回答の場合には、出現頻度順にはなっていない並び方もある。
- (4) カテゴリーに分類できないものは、「その他」に入れた。分かりやすくするため、「その他」の表を他のカテゴリーと違う形で区分した。また、「その他」のカテゴリーには、出現数のみを示し、比率は示さなかった。

#### 3-1-2. 各カテゴリーとコードの区分

全体として、アンケートの集計結果を6種類のカテゴリーに分類した。その分類は

「性格」カテゴリー、「授業」カテゴリー、「教師と学生の関係」カテゴリー、「教師特性」カテゴリー、「知識」カテゴリー、「その他」である。

さらに、授業カテゴリーには「授業の実践能力」や「授業内容」に関する下位区分が含まれている。「教師と学生の関係」カテゴリーには、「学習者のニーズに応える」や「相互理解」に関する下位区分が含まれている。

「性格」カテゴリーが圧倒的に多く出現し、全体の首位を占めている。「性格」カテゴリーは「教師特性」カテゴリーの一部とも考えられるが、出現度数が非常に高くなったため、独立したカテゴリーとして区別した。

「性格」カテゴリーには、「優しい」「面白い」「明るい」など教師の個人的な性格を表すものを入れ、「教師特性」カテゴリーには、「発音」「賢い」「能力」など教師の性格以外の特徴・特性を表すものを入れた。

また、類義語または関連表現の語群のうちの出現度数の多いものをコードとした例が多い。例えば「優しい【18】 親しみやすい【9】 親切【4】 フレンドリー【3】 怒らない【2】 面倒見が良い【2】」などの語群は「優しい」とコード化した。また、「積極的【8】 向上心がある【3】 好奇心旺盛【3】 ポジティブである・負けず嫌い・活動的・前向きな姿勢」などの語群は「積極的」とコード化した。

ただし、必ずしも出現した語群の中からコード名を選定したわけではない。たとえば、「学習者を励ます【5】 面白い授業が作られる【4】 眠くない授業ができる【2】 毎回学生が欠席しないように努力する先生・学生が勉強に興味持つようにできる・日本語を使うチャンス（雰囲気）を作り、間違いをチェックする」などの語群には「動機付け」というコードを付したような場合もある。

「文字」のコードについては、板書の意味から考えると、「板書の文字が読みやすい」などは、「授業の実践能力」に相当し、「授業」カテゴリーに含めてもよいが、「字がきれい」「字が丁寧」などは「声大きい」「発音がはっきりしている」などと同列に教師自身が持つ特性でもあると考えられるため、本稿では「教師特性」カテゴリーに入れた。

中国人学習者の自由記述の紹介で「が（→に）」のように助詞の誤りは（ ）内に訂正すべき形を→の先に示した。表現レベルでも「欠かない（→欠かせない）」のように同様の形式で→の先に訂正すべき形を示した。

### 3-2. 「性格」カテゴリーの分析

<表3> 「性格」カテゴリー

中国人学習者の回答内容	実数	比率	コード	比率	実数	日本人の回答内容
優しい【27】親切【19】 …	47	35.6	優しい	25.1	61	優しい【29】親切【9】 …
ユーモアがある【17】面白 い【10】	27	20.5	面白い	15.2	37	面白い【18】ユーモア【17】 ジョークを言う【2】
明るい【9】笑顔【2】…	13	9.8	明るい	17.3	42	明るい【26】笑顔【10】 …
まじめ【5】責任感【5】	10	7.6	誠実	3.7	9	真面目【2】誠実【2】正直…
熱心な人【5】元気…	9	6.8	熱心	13.6	33	熱心【13】活発【11】…
忍耐力がある教師【4】 …	9	6.8	忍耐力	6.2	15	根気強い【5】忍耐力【2】 …
厳しい【8】	8	6.1	厳しい	4.1	10	厳しい【6】叱ることができる【4】
寛容・他人の意見と見解 を虚心に聞ける・尊大で もったいぶった態度を 持っていない	3	2.3	寛容	5.8	14	寛容【7】器が大きい【2】 考え方が柔軟【2】謙虚・ いばっていない・形式に とらわれない
性格がいい・愛想がいい …	6	4.5	その他	9.1	22	積極的【18】・穏やか【4】 …
中国人学習者からの出現件数【132】			日本人からの出現件数【243】			

<表3> 「性格」カテゴリーをグラフに表すと次の図2になる。

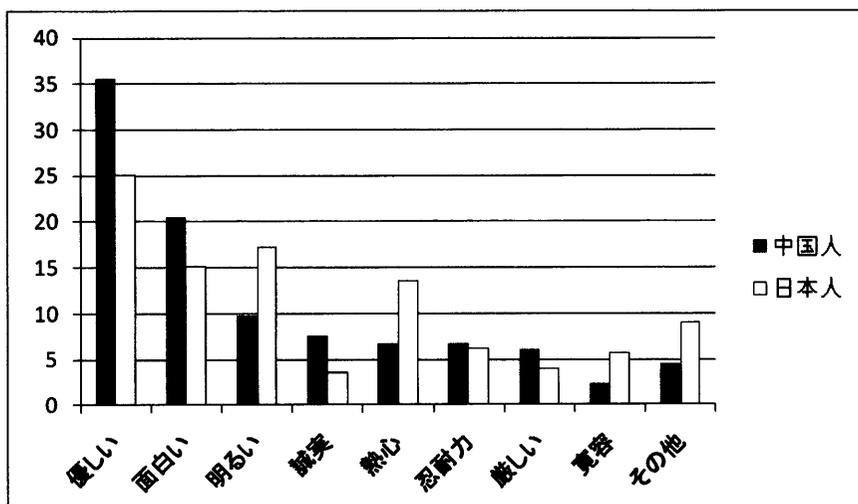


図2 「性格」カテゴリー

<表3>と図2に示したように、「優しい」のコードは中国人学習者も日本人も共通して首位であり、両者とも教師の優しさを求めていると言える。しかし、中国人学習者が35.6%で、日本人25.1%より、10.5ポイント高い。

興味深いのは、中国人学習者も日本人も教師の優しさを求める一方で、厳しさも求めているという点である。

「面白い」のコードには、中国人学習者が20.5%で、日本人の15.2%より、5.3ポイント高い。中国人学習者は面白い教師を求めている傾向にある。

両者に共通している「明るい」と「熱心」がコード化されているが、「明るい」のコードについては、中国人学習者が9.8%であるのに対し、日本人は17.3%と、7.5ポイント高い。「熱心」のコードについては、中国人学習者が6.8%であるのに対し、日本人は13.6%と、6.8ポイント高い。日本人の方が中国人学習者より「明るい」「熱心」な教師が望ましいと考えているようである。

「誠実」「忍耐力」「厳しい」「寛容」の各コードの間に大きな差は認められない。

「その他」に関しては、中国人学習者には「積極的」「穏やか」の回答がなかったが、日本人は「積極的」18件(7.4%)、「穏やか」4件(1.6%)、「落ちついている」1件(0.4%)、精神的に安定している1件(0.4%)の回答があった。「穏やか」と回答したのは、30代から70代の日本人であったため、これは、回答者の年齢の高さが影響しているとも考えられる。中国人学習者の回答には、「性格がいい・愛想がいい・恥ずかしくない・かわいい・平静」などの記述も含まれていたが、「恥ずかしくない」は「恥ずかしがらない」の意であると思われる。

また、アンケート用紙の自由記述欄では、「私から見れば、いい日本語教師になりたいのは責任感、辛抱強さや前向き精神を持たなければなら(ない)のです。なぜかという、この三つの要素は今までの日本語教師が(→に)もっとも欠かない(→欠かせない)ものだと思うからです」(中国・20代・男性)という記述があった。

縫部(2008)が望ましい日本語教師像に関して、第4因子としてあげた「明るい人間性」の中の「明るく、ユーモアがある」に該当する部分が「性格」カテゴリーに含まれている。ただし、同因子内の「楽しんで教えている」は次の<表4>に含まれ、同因子内の「学習者をほめたり、励ましたりする」は、本調査結果の<表5>「教師と学生の関係」カテゴリーに含まれている。

### 3-3. 「授業」 カテゴリーの分析

<表4> 「授業」 カテゴリー(授業の実践能力、授業内容)

中国人学習者の回答内容	実数	比率	コード	比率	実数	日本人の回答内容
分かりやすい【17】説明が上手い【9】明瞭…	28	37.8	分かりやすい	38.6	98	分かりやすい【52】説明が上手い【22】…
雰囲気がいい【8】…	11	14.9	雰囲気	11.8	30	授業が楽しい【20】…
教え方が多様【4】…	9	12.2	教授法	17.7	45	教え方が上手【15】…
ジェスチャー【2】…	5	6.8	非言語	7.5	19	ジェスチャーが豊富【8】…
学習者に日本語で多く話させる・会話能力の向上…	4	5.4	対話重視	7.1	18	対話を重視する【14】参加型の授業をする【3】…
授業内容が豊富【5】教科書以外の事【3】役立つこと【2】日本文化も教える・宿題が少ない	17	23.0	授業内容	17.3	44	日本のこと【21】役立つこと【6】話題が豊富【4】色々な話をしてくれる…
中国人学習者からの出現件数【74】			日本人からの出現件数【254】			

<表4> 「授業」 カテゴリーをグラフに表すと次の図3になる。

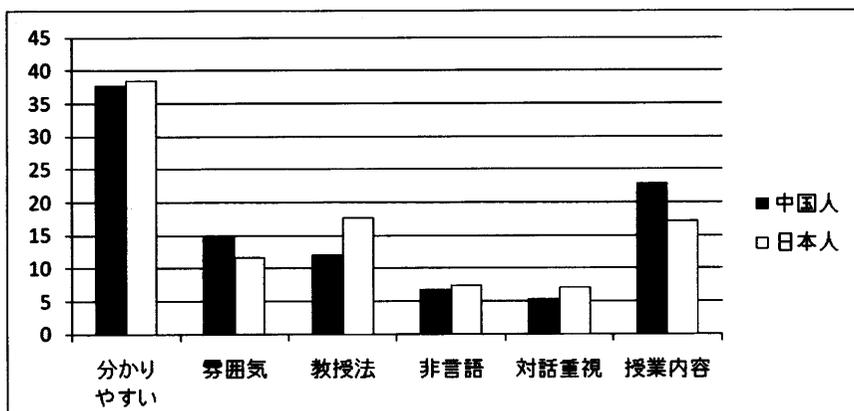


図3 「授業」 カテゴリー

<表4>の「授業」 カテゴリーに関しては、中国人学習者74件で、全体の第二位を占めているのに対し、日本人は254件で、全体の中で首位を占めている。両者ともいい日本語教師の条件として「授業」の占める割合が高く、関心が高いと言える。「授業」 カテゴリーの中では、「授業の実践能力」に関しては、日本人と中国人学習者との間に大きな差が見られなかった。「分かりやすい」のコードが中国人学習者も日本人も首位を占めており、中国人学習者が37.8%で、日本人は38.6%とほぼ同等の比率を示

している。両者とも「分かりやすい」授業が望ましいと考えていると言える。

「教授法」のコードは、中国人学習者より日本人の方が5.5ポイント高く、日本人は教授法について価値を置いている傾向がみられる。「雰囲気」「非言語」「対話重視」の各コードに関しては、両者の間に大きな差は見られなかった。

「授業内容」のコードには、中国人学習者の方が、日本人より5.7ポイント高く、中国人学習者にも、日本人にも「豊富な内容」や「役立つこと」等の記述が見られた。

縫部（2008）は、望ましい日本語教師像の第2因子として「授業の実践能力」（学習者に日本語で話すことを促す。多様な教授法、教材、視聴覚教具を用いる。授業がきちんと構成されている）を挙げている。それは本調査結果における<表4>の「授業」カテゴリに対応する。第2因子内の「学習者に日本語で話すことを促す」という項目に関しては、<表4>の「対話重視」コード内の「学習者に日本語で多く話させる」との回答が含まれているのに対応している。第2因子内の「多様な教授法、教材、視聴覚教具を用いる」は、<表4>の「教授法」に対応している。

### 3-4. 「教師と学生の関係」カテゴリの分析

<表5> 「教師と学生の関係」カテゴリ（学習者のニーズに応える、相互理解）

中国人学習者の回答内容	実数	比率	コード	比率	実数	日本人の回答内容
学生の気持ちを理解する【14】・学生に気を配る【4】 学生を尊重する【2】…	23	31.9	学習者理解	21.5	51	生徒の気持ちを理解する【15】 生徒の理解度を把握する【8】 相談できる【7】…
思いやりのある授業態度【6】 外国人のためにゆっくり説明してくれる…	16	22.2	丁寧	20.3	48	丁寧【21】 質問に努力する【6】 指摘できる【6】 生徒を大事にする【3】…
学習者を励ます【5】 面白い授業が作られる【4】…	13	18.1	動機付け	13.1	31	生徒に興味を持たせる【13】 ほめる【11】…
平等【5】 偏見がない・差別しない…	9	12.5	平等	7.6	18	平等【13】 上からの目線でない【5】
コミュニケーション能力がある【4】 学生と友達になれる【3】	7	9.7	コミュニケーション	17.3	41	コミュニケーション能力がある【25】 人と関わることが好きである【5】…
外国の文化を理解する【3】 中国文化も分かる	4	5.6	異文化受容	20.3	48	異文化に理解がある【21】 外国のことにも詳しい【10】 他国文化を尊重する【7】…
中国人学習者からの出現件数【72】			日本人からの出現件数【237】			

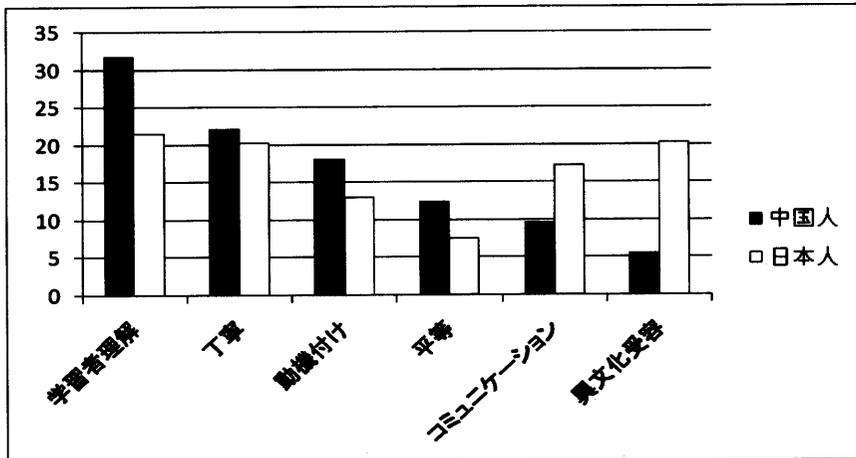


図4 「教師と生の関係」 カテゴリー

<表5>と図4の「学習者理解」のコードは、中国人学習者も日本人も首位を占めているが、中国人学習者が31.9%で、日本人の21.5%より10.4ポイント上回っている。

中国人留学生の「学習者理解」コードには「相談できる先生・学生を尊重する・生活のことをすすめる・外国人日本語の苦手のところを把握している・学習者の理解度によって授業を進む・学習、授業のことだけではなく、生活やほかの方面にも手伝ってもらえる・学生を放棄しない先生」などの内容も含まれている。そのことから中国人留学生の方は「学習者理解」を強く希望していると言える。特に、「学生を放棄しない」などは、学業不振の学習者を見放さない、置いてきぼりの授業をしないことを意味する。

また、知識を教える教師の役割だけではなく生活援助者としての役割が期待されていることが「学習、授業のことだけではなく、生活やほかの方面にも手伝ってもらえる・困った時助ける」などの回答が含まれていたことからわかる。要するに、学習だけではなく、学習者の様々な面のニーズに応えられる教師が望まれている。

「丁寧」と「平等」のコードに関しては、両者の間に大きな差が見られなかったが、「丁寧」のコードに関しては、両者とも20%以上の比率を占めているため、回答者が学生に対する丁寧な扱い、丁寧な授業が望ましいと考えていると言える。

「生徒を生徒だけに扱わない先生」との回答があったが、それはいつも「教師」と「生徒」という固定的な身分格差の前提で扱うのではなく、学生を教師と同じ人間として尊重することの大切さを示していると思われる。

また、「試験だけで学生を評価しない先生」という回答もあったが、それも学生の価値を成績に限らず、様々な観点から評価されることを望む気持ちの表れであろう。

「コミュニケーション」のコードは、中国人学習者が9.7%であるのに対し、日本人は17.3%と7.6ポイント高い。「異文化受容」コードの中には、中国人学習者が5.6%であるのに対し、日本人は20.3%と14.7ポイント高かった。外国人の学習者の方が異文化受容性やコミュニケーションを求めるのは自然だと考えられるが、集計結果を見ると日本人の方がかなり上回っている。

「異文化受容」コードの中には、中国人学習者の回答として「中国文化も分かる」があるが、それは自国の文化を教師にも受け入れて欲しいという期待だと考えられる。

縫部（2008）は、日本語教師像に関して、第1因子として「思いやりのある態度」（あたたかく、やさしく、思いやりがある。学習者の感情を受け入れる。大きな忍耐力がある。教室を和やかで、くつろいだ雰囲気にする）を挙げている。〈表5〉の「教師と学習者の関係」カテゴリは、縫部（2008）の第1因子の「思いやりのある態度」に該当する。

日本語学習者は学習目的、学習経験、年齢、母語、母語文化、個人差などの違いがあり、その違いを理解しないと、学習者のニーズに応じる教師側の適切な対応もできないであろう（小林、1998＝2005参照）。

### 3-5. 教師特性カテゴリの分析

〈表6〉教師特性カテゴリ

中国人学習者の回答内容	実数	比率	コード	比率	実数	日本人の回答内容
発音がいい【11】発音がきれい【2】発音がはっきり…	19	29.2	発音	32.3	50	はっきり【39】大きい【7】ゆっくり・明るいトーンの声…
賢い【8】鋭い【5】	13	20.0	賢い	10.3	16	賢い【7】臨機応変【4】…
高学歴【2】想像力がある・表現力がある・口頭表現力が強い・役者並みの演技を持っている・計画がいい…	10	15.4	能力	15.5	24	理解力がある【3】聞き上手【3】発想力【2】指導力【2】観察力がある【2】日本語教師の資格を持っている…
視野が広い【2】日本へ行ったことがある【2】…	7	10.8	視野	16.8	26	視野が広い【14】経験が豊富【9】よく海外行く【2】…
礼儀正しい・時間を守る…	5	7.7	品行	9.7	15	教養がある【4】品行方正…
字がきれい【2】	2	3.1	文字	11.6	18	字がきれい【7】字が丁寧…

人気【3】独特な見解【2】 正しい価値観を持つ【2】 独特な風格がある・徳望が高い	9	13.8	その他	2.6	4	人柄がよい【2】多趣味【2】
中国人学習者からの出現件数【65】			日本人からの出現件数【155】			

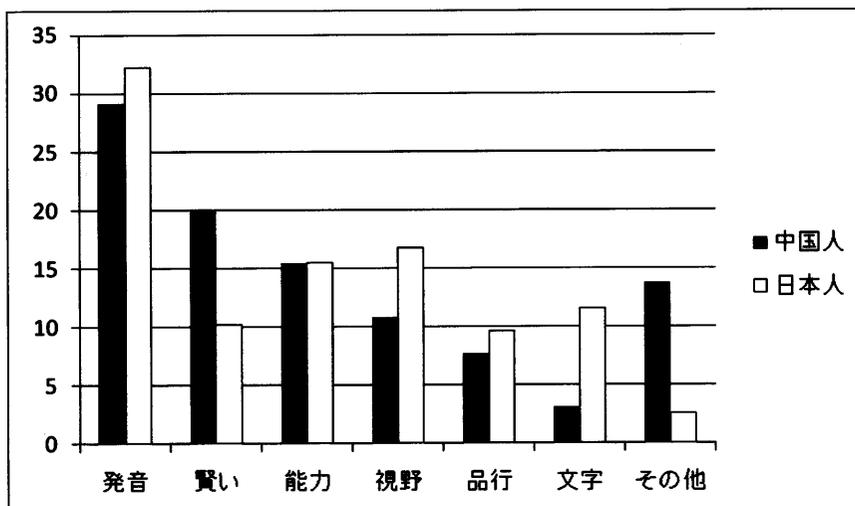


図5 教師特性カテゴリー

＜表6＞と図5に示した「発音」コードには、中国人学習者と日本人の間に大きな差が見られなかった。両者とも30%近くを占めていることから、日本語教師が標準的な日本語を発音することが両者ともに望ましいと考え、期待されていると言える。

「賢い」のコードに関しては、中国人学習者は20.0%で、日本人10.3%より9.7ポイント高い。中国人学習者の方は「賢い」教師をより強く求めていると言える。

「発音」「能力」「視野」「品行」の各コードには、両者の間に大きな差が見られなかったが、「能力」のコードに「高学歴」のような教師の学歴に関する記述も出現した。「能力」のコードに関して、＜表6＞から省略された回答として「観察力がある【2】・記憶力・対応力・自己開示力・感受性豊か・キャパが広い・問題処理能力が高い・行動力がある・実力がある・人の名前と顔をすぐに覚えられる・アドリブ性」などがあつた。

「文字」のコードに関しては、日本人は11.6%で、中国人学習者3.1%より8.5ポイント高い。日本人は教師の字を重視していると言え、小中高と板書中心の授業のイメージが影響しているのではないかと考えられる。「その他」のコードには、中国人学習者は「人気・正しい価値観を持つ・独特な見解」などの内容が含まれている。

### 3-6. 「知識」カテゴリーの分析

<表7> 「知識」カテゴリー

中国人学習者の回答内容	実数	比率	コード	比率	実数	日本人の回答内容
日本文化に詳しい【12】 日本に対する知識が広い・日本社会事情…	19	31.1	日本文化・ 日本事情	24.5	61	日本文化の知識が豊富【39】 日本に詳しい【11】 日本が好き【8】…
幅広い知識がある【10】 専門知識【3】博学【2】	19	31.1	幅広い 知識	13.7	34	知識が豊富【26】専門知識【3】…
日本語が上手【6】日本語が好き【3】 言語学の知識【2】・文法の知識【2】 日本語に関する知識を多く知っている	14	23.0	日本語の 知識	42.2	105	日本語知識が豊富【57】 日本語への理解【36】 言語の知識が豊富【3】 日本語に厳しい…
勉強熱心【2】勤勉だ	3	4.9	探求心	7.6	19	勉強熱心【13】努力家【3】 本をよく読む…
他の言語も分かる【4】 …	6	9.8	外国語	12.0	30	外国語ができる【25】…
中国人学習者からの出現件数【61】			日本人からの出現件数【249】			

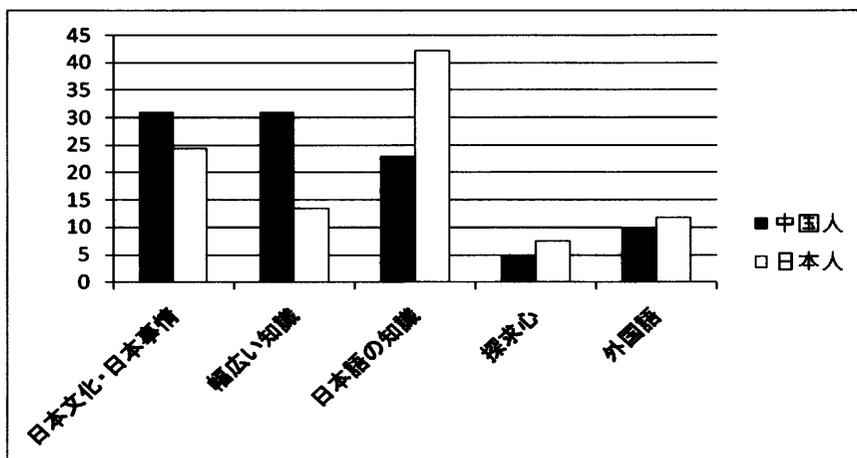


図6 「知識」カテゴリー

<表7>と図6に示した「知識カテゴリー」の中では、「日本文化・日本事情」のコードが中国人学習者では首位を占めているが、日本人の方は、「日本語知識」のコードが首位となっている。「日本文化・日本事情」のコードにおいては、中国人学習者が31.1%であり、日本人の24.5%より6.6ポイント上回っている。

「幅広い知識」のコードに関しては、中国人学習者は31.1%であり、日本人の13.7%より17.4ポイント上回っている。中国人学習者にとって、日本語の学習は日本語その

ものだけを学ぶのではなく、日本の文化や日本事情など幅広い知識の習得が期待されていると考えられる。すでに日本に留学してきている中国人学習者は日本語学習重視の段階から、教師が持つ日本文化や事情に関する幅広い知識を獲得する段階にあるとも言えるであろう。本調査の回答者の中国人学習者は、すべて日本語でマインド・マップに記入しており、日本語のレベルが中上級のレベルにあることも関係しているであろう。

「日本語の知識」のコードに関しては、中国人学習者が23.0%であるのに対して、日本人は42.2%と19.2ポイントの差で遥かに中国人学習者を上回っている。日本人の方が「日本語の知識」を重視している姿勢が表れている。日本人にとって、日本語は特殊な言語であるとの思い込みがある。また、日本語を空気のように無意識に使用しているために、あえて日本語を対象化し、客観的に見てこなかったという背景がある。外国人に日本語を教える場合には大前提として「日本語の知識」が十分備わっていないと考へなければならないと考へたことにより、上記のような大きな差が出たと考へられる。

「探究心」と「外国語」のコードに関しては、両者の比率にほとんど差はないが、中国人学習者の回答の中に「中国語も話せる」などの内容が含まれている。

縫部（2008）は、日本語教師像に関して、第3因子として「幅広い知識」（日本の文化・習慣・歴史について幅広い知識がある。世界経済・国際問題について幅広い知識がある。言語学に基礎的な知識がある）を挙げている。

本調査結果の上記〈表8〉の「知識」カテゴリーが第3因子の「幅広い知識」に該当するよう思われる。日本語教育の現場では、単に日本語だけを教えていけばよいのではなく、背景となる日本の文化・習慣・歴史など、いわば日本事情についての幅広い知識が必要となる。特に、外国人学習者にとっては、日本語の学習は異文化と接することである。日本事情を知ることから日本語をより深く理解することもできると考へられる。言語そのものの学習のみでは、学習が単調となり、退屈になりかねない。日本語を多角的な視点から考へ、理解することは、学習者側の学ば意欲を持たせる動機づけのための良い方法だと考へられる。

さらには、学習者は日本や日本語を通して世界経済・国際問題など、現代の世界で起こっていることについての知識を得ることを希望しており、日本語教師は単に語学として日本語を教えるだけでなく幅広い知識を持っていることが期待されている。

### 3-7. その他の分析

<表8>その他

区分	コード	回答内容	合計
中国人	属性	日本の料理ができる・男でもいいし女でもいいし・しゃべる人・日本人の特徴を持つ人・心が若い	5
	外見	格好いい【2】・美しい・若い人がいいけど、経験面から見るとそうはいかないみたい・ファッションにセンスがいい・すっきりしたみなり	6
日本人	属性	実績がある・辞書に頼らない・平和を好む人・健康な人・辛い	5
	人間関係	卒業しても覚えている・印象に残る	2
	行動特性	いい成績をくれる・単位をくれる・あまり宿題がない・おかしい表現はおかしいと言う・授業には必ず辞書を持ってくる人（日本語、外国語）・国語辞典持ち歩いている・危険ととなりあわせを生きぬく・厳しい世界を生きぬく自分のおかしい話（雑談）もある・外国旅行が好き・究極の難題	10

<表8>に示したように、中国人学習者の具体的な回答内容の中に、「男でもいいし女でもいいし」という回答があったが、「男の教師でもいいし女の教師でもいい」の意であろう。日本人の回答には、「授業には必ず辞書を持ってくる人（日本語、外国語）・辞書に頼らない・国語辞典持ち歩いている」のような辞書に関する記述が見られた。

「おかしい表現はおかしいと言う」という点は、授業の実践能力の一部であり、前掲の<表4>の「授業」カテゴリに入れてもいいし、<表3>の「性格」カテゴリの中の「厳しい」または「熱心」「誠実」のコードに入れてもいいであろう。本来、回答者のフォローアップ・インタビューをして回答の意図を確かめるべきであろうが、無記名の調査のため、残念ながらそれができず、「その他」の中に入れた。他の表にもそのような判別しにくい回答があり、表の「その他」に入れることで対応した。

#### 4. まとめ

次の<表9>に示したように、縫部（2008）の調査結果と本調査の中国人学習者と日本人回答者の結果において、それぞれの順位の上で差異が見られた。

まず、縫部（2008）の調査は、選択式の質問紙法によるもので、本調査はマインド・マップによる自由記述方式であるという調査方法の違いがある。対象者の立場の違いから見ると、縫部（2008）の調査対象者は海外の日本語教師であるのに対して、本調査の中国人学習者と日本人回答者の多くが教えられる側にいる。日本語教師も、中国

<表9>まとめと比較

	縫部 (2008)	中国人学習者	数	日本人回答者	数
1	思いやりのある態度	「性格」 カテゴリー	132	「授業」 カテゴリー	254
2	授業の実践能力	「授業」 カテゴリー	74	「知識」 カテゴリー	249
3	幅広い知識	「教師と学生の関係」 カテゴリー	72	「性格」 カテゴリー	243
4	明るい人間性	「教師の特性」カテ ゴリー	65	「教師と学生の関係」 カテゴリー	237
5		「知識」 カテゴリー	61	「教師の特性」カテ ゴリー	155

人学習者も、日本語教育に直接関係しており、本調査の日本人回答者は日本語教育から一定の距離を置く立場にある。こういう立場と視点の違いから上記の<表10>のような頻度順の順序性における差異が生じたと考えられる。

林 (1992) は、「日本語教師として学習者に援助的であるためには、学習者に対する共感的理解が必要となる」と述べている。学習者への「共感的理解」は縫部 (2008) の「思いやりのある態度」と解釈できる。日本語学習者には、学習目的、学習経験、年齢、母語、母語文化、職業などの差異があり、学習者の個人差、学習段階上の個人差もある。こういう学習者の多様化は日本語教師が最初に考えるべきことである。「思いやりのある態度」を持ち、学習者の多様なニーズを考え、それに応えることは教師の立場から優先されるべきことだと思われる。林 (1989) が、多様化する学習者と教える側の課題について、主としてカリキュラム上の提案をしている。

以上のような背景から、上記の<表9>に示したように、縫部の「思いやりのある態度」が第1項目となったのであろう。学習者の多様なニーズを分析した後はどう教えるかという問題になる。つまり「教授法」あるいは「授業の実践能力」の問題である。

中国人学習者の調査結果から見ると、「性格」 カテゴリーが第1項目となっている。学習者の立場から考えると、日本語を学ぶということは、日本語の理解や使い方を間違ったショックから立ち直り、進歩することである。いかに優秀な学習者でも、日本語の学習過程で誤りを犯すものである。もし間違ったら教師に叱られるという不安を抱えている学習者も多くいると思われる。「優しい」教師がそういう不安を和らげ、語学は「誤りから学ぶ」ことを教える。木村 (2009) も、学習者の誤用分析を行なう中から、学習者の誤用を「成長の証」として捉えている。

外国人に日本語を教える時、言葉だけで説明出来ない場合もあるため、大げさな動作などを加えたりした方が印象に残り、分かりやすくなる。その時、「面白い」教師や「明るい」教師の方が望ましいと考えられる。以上述べたように、<表3>では、

「優しい」「面白い」「明るい」が上位3項目になっていて、「性格」カテゴリーが全体の首位となっている。

縫部（2008）の調査結果や日本人回答者の結果と違い、「知識」カテゴリーに関しては、中国人学習者の結果が最後の5項目となっている。その結果は、中国人学習者から見ると、日本語教師になる前提としては日本語の知識を備えていることが当然と考えるからである。知識を有していることは当たり前のことであるから、あえて回答として表れなかったと思われる。また、中国人学習者にとって必要な「知識」は、日本人にとって常識的な範囲での知識で、日本人の回答者は、より専門的な「知識」が必要であると考えた可能性がある。

日本人回答者の調査結果から見ると、「授業」カテゴリーが第1項目となっている。まず、日本人の回答者は、自分が今までに受けてきた「授業」イメージから「知識」カテゴリーでの出現件数が多く、「授業」とは「知識」を教えるものだとする固定的なイメージがあるのではないかと思われる。それに対して、中国人学習者にとって必要なのは、本に書いてあるような「知識」ではなく、日本語を現実場面で実際に運用することができるようになるための練習や演習などのできる「授業」だと推測できる。

日本人の回答者は、山口大学で専門科目として日本語を履修している大学生及び日本語ボランティア養成講座参加者の社会人である。彼らは日本語の授業で、ペアワーク（pair-work）やグループワーク（group-work）などの教授法に触れる機会が多く、毎回の授業でふりかえりシートに授業に関する感想や意見を記入する作業があるため、「授業」カテゴリーに関する回答が多く得られたとも考えられる。（林、2008参照）

日本人回答者の「教師と学生の関係」カテゴリーは第4項目となっている。日本人回答者はあくまで母語話者であるため、外国人学習者の立場から物事を考えるまでには至らなかったと思われる。

## 5. 考察

<表3>の「性格」カテゴリーに関して、「性格」区分は中国人学習者も日本人も回答の出現件数が多かった。自由記述にも、「教師としてのスキルと、生徒から愛されたり頼られたりできる人間性が重要だと思います」（10代・女性・日本）、「とりあえず、先生の性格が一番重要なものだと思います」（20代・女性・中国）や「性格と知識面が一番重要だと思う」（20代・女性・中国）などの記述があった。全体として、教師の情意面や人間性が重視される結果となった。

また、自由記述には、「日本語教師」ですが、イメージとしては“いい教師”を主にイメージしてみました」（40代・女性・日本）や「いい“日本語教師”のイメージ

条件といっても、やはりいい“教師”のイメージが先行するのではないかなと思います」(20代・女性・日本)などの記述もあった。「いい日本語教師—いい教師—いい人」という連想から、教師としてよりも人間として良い要素が上位に来ているとも言える。一人の人間が持つべき良い所がいい日本語教師の前提として回答されたと推測される。

〈表3〉の「優しい」コードに関しては、中国人学習者が35.6%で、日本人25.1%より、10.5ポイント高い。中国人学習者の方が日本人より教師の優しさを強く求めているということが分かった。ただし、林・林(2005)の「ほめる」使用頻度と「ほめられる」好感度に関する10-20代の同世代間での調査では、日本人は男女共に「優しい」が首位を占めている。

「優しい」に関する記述が多かった一方で、「厳しい」に関する回答も得られた。

陳(2009)は、〈厳師〉(厳しい教師)に関して、中国には昔から、〈厳師出高徒〉という諺があり、「厳しい先生の下から、優秀な人材が育つ」という意味であると述べている。留学生の立場からは、せっかく日本に来たため、のんびりして時間を無駄にすることはもったいないから、厳しい教師の指導の下でたくさんの知識を習得することが望ましいとの考えがあるだろう。優しい一方では、学習によくないと考える人もいると思われる。

日本の学校では、「自分に厳しく、他人には優しく」など標語が教室に掲げられ、教師も学生に優しく接することが望ましいとの雰囲気がある。

〈表4〉の「授業内容」の区分では、「宿題が少ない」という中国人学習者の記述があった。中国では、小学校から高校まで授業時間数が多く、宿題も多く、生徒たちの負担が大きかった。近年中国の教育現場では「生徒たちの負担を減らす」ことが提唱されているが、効力のほどは疑問である。これらの具体的な回答は中国人学習者が経験したことや現在日本語学習者の状態で感じたことから出現したものだと考える。

〈表5〉の「動機付け」のコードでは、中国人学習者の方が、日本人より5ポイント高い。中国人学習者の具体的な回答には、「学習者を励ます」や「適当に褒める」のような回答があった。外国語の学習がいつも順調に進むとは限らないため、挫折感を感じる学習者がいる。そこで、小さな出来事でも良い、教師に励まされ、褒められることを通して、他人に認められる満足感が得られ、学習を積極的にする要素の一つとなる。つまり、学習意欲喚起が重視されていると考える。

「学習者を励ます」場合や「ほめる」場合など、具体的にはどういう言葉掛けで「励ます」といいのか、「ほめる」にしても日本と中国の大学生レベルでのほめられてうれしいと感じる言葉や好感度が異なることも十分考慮しておく必要があるだろう。

林・林・相村（2007）は、「ほめる」使用頻度と「ほめられる」好感度を調査し、日本の大学生では「やさしい」「楽しい」の人気度が高く、中国の大学生では、「明るい」「ほがらか」の人気度が高かったと若者の価値観の違いを報告している。

<表5>の「教師と学生の関係」カテゴリには、中国人学習者の「学生を放棄しない先生」という回答があった。中国では、学生の成績によってクラスや席を決める学校が多い。成績の悪い学生が教師に放棄される場合も少なくない。そういう教育を受けてきた中国人の学習者は、教師に見放されず、粘り強く教えてもらうことを望んでいると考える。

「学習者理解」のコードには、中国人学習者が31.9%で、日本人の21.5%より10.4ポイント上回っている。中国人学習者にとって、郷里を離れて勉学に励むことは決して楽なことではない。生活にも、学習にも様々な不安があり、心細く感じることもある。そこで、その孤独感を解消する有効な方法が、教師や周りの人からの理解であると考えられる。前述のように、中国では成績不良の学生を見放すことがあるからこそ、「学習者理解」が求められると考える。

「異文化受容」のコードには、中国人学習者が5.6%で、日本人は20.3%と、14.7ポイント高かった。中国では多数の少数民族をかかえ、経済発展とともに外国人や外国文化が流入し、「コミュニケーション」や「異文化受容」が日常的な事柄である。それに対して、日本はまだ「コミュニケーション」や「異文化受容」が不十分で苦手意識を持っている人も多い。異文化接触の機会の多い日本語教師にはそのような「異文化受容」や相互理解の観点が必要であり、そういう方面での期待が高いと考えられる。

<表7>の「知識」カテゴリに関して、中国人学習者の方は「日本文化・日本事情」「幅広い知識」の2コードが首位であるのに対し、日本人の方は「日本語の知識」のコードが首位である。特に「幅広い知識」のコードに関しては、中国人学習者は31.1%であり、日本人の13.7%より17.4ポイント上回っている。本調査の回答者の中国学習者には、人文学部、経済学部、教育学部、理学部などに属する学生が含まれており、日本語を情報収集の手段として活用し、世界情勢など「幅広い知識」を獲得したいと思い、日本の文化・事情より世界的なことに関心の重点が置かれているとも考えられる。中国人学習者は日本人よりも日本関係以外での「幅広い知識」を求めていると言える。中国人学習者にとって、日本語教師は日本語や日本文化・日本事情を知っていれば良いとは限らなく、広い領域の様々な知識が求められていると言える。

それに対して、日本人の側は、日本語は特殊な言語で習得しにくく、あくまで「日本語の知識」そのものを教える必要があると考えていると思われる。そのため、「日本語の知識」のコードに関して、日本人は19.2ポイントの差をつけて中国人学習者を

上回っている。

日本人の回答には、「日本が好き」という記述もあった。やはり、日本人が自分の国を愛し、自分の言語や文化に対する肯定感が大切だと思う人が多いと見られる。林(1992)は、日本語教師に求められる資質の一つとして「自己理解(「自国の文化理解」を含む)」を挙げている。中国人学習者の中にも「日本語が好き」という記述があった。教える言語を好きでなければ、学習者に日本語を学ぶ意欲を持たせることもできないと考えられる。

## 6. 今後の課題

本報告では、「いい日本語教師とは？」を中心テーマとして、マインドマップ調査を行なったが、その結果は、教師の「性格」や「特性」「知識」だけでなく、「授業」に関数するカテゴリーや「授業」を媒介とした「教師と学生の関係」に関するカテゴリーの内容でも多数の回答が得られた。

今後の課題としては、「いい授業とは？」を中心テーマとしたマインドマップ調査を実施して、分析・検討を試みたい。特に「いい日本語の授業とは？」とテーマを特化する形も考えられるが、現実の授業科目ごとの「いい授業とは？」をテーマ化して調査し、授業に対する学生の期待やニーズを把握することが、授業方法と授業内容の改善につながる可能性があると考えられる。そうすることにより、学習者の期待と授業の現実の間のずれを埋め、足元からのFD (Faculty Development) を実現する契機となると期待できる。

## 【参考文献】

- 木村直美 (2009) 「外国人日本語学習者の言語習得研究—談話分析を中心に—」 山口大学日本語教育研究会発行『山口大学日本語教育論集』第1号、pp.1-67
- 許恵玉 (2009) 「『日本文化』と『中国文化』のイメージ比較研究」 山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第32号、pp.136-150
- 小林ミナ (1998=2005) 『よくわかる教授法』アルク
- 佐々木翔太郎 (2008) 「日本と中国における『鬼』のイメージの差異について」『平成20年度日本語教育学会・第10回地区研究集会予稿集』 pp.14-23
- 陳仲鵬 (2009) 「日本語と中国語の同形語〈先生〉について」 山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第32号、pp.152-166
- Tony Buzan & Barry Buzan (1993) *THE MIND MAP BOOK*. BBC BOOKS (=邦訳: トニー・ブザン著、田中孝顕訳 (1996) 『これが驚異のマインド・マップ放射思考

だ!!』騎虎書房)

縫部義憲 (2008) 「海外の日本語教師はどのような専門性を備えていると考えているかーアジアとオセアニア地域を対象にー」『平成20年度日本語教育学会・第10回地区研究集会予稿集』 pp.105-110

縫部義憲・渡辺倫子・佐藤礼子・小林明子・家根橋伸子・顔幸月 (2006) 「学習者が求める日本語教師の行動特性の構成概念」『日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査研究 (平成16年度ー平成17年度科学研究費補助金基盤研究 (B)) 研究成果報告書』 pp.94-105

林伸一 (1992) 「日本語教師」岡崎敏雄ほか『ケーススタディ日本語教育』桜楓社

林伸一 (1989) 「多様化する学習者と教える側の課題」日本語教育学会発行『日本語教育』67号、pp.128-138

林伸一 (2008) 「ペア・ワーク 共育論ー対話のある授業実践」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版) 第54巻、pp.65-70

柳海霞 (2008) 「在日留学生・就学生の生活評価についてー中国人学生を対象にー」林伸一研究室発行『現代日本語文化論』第1号、pp.94-126

林宇萍・林伸一 (2005) 「『ほめる』使用頻度と『ほめられる』好感度 (Ⅱ) ～10代・20代の同性・異性間の差異～」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第28号、pp.43-54

林宇萍・林伸一・榎村知美 (2007) 「中国と日本の若者の価値観比較～「ほめる」使用頻度と「ほめられる」好感度～」山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第57号、pp.71-81

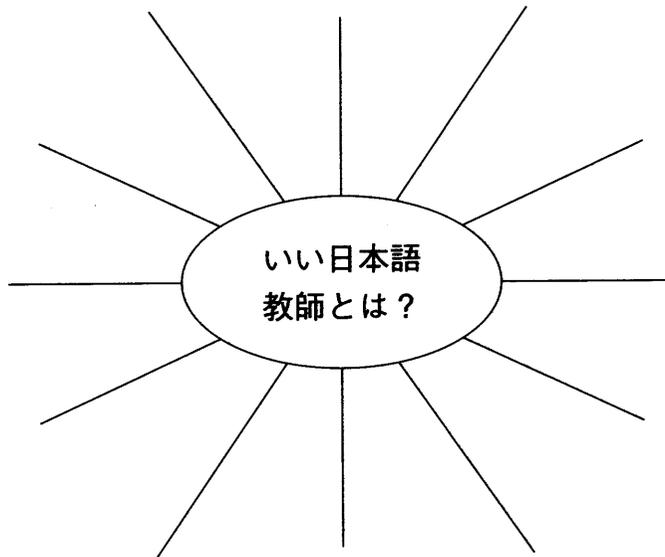


日本人学生とペアを組んで学ぶ中国人留学生

<別添資料>

## アンケート調査

あなたにとって「いい日本語教師」とはどんな教師でしょうか？ 思いつく言葉やイメージ、表現などを次のマインド・マップに書き入れてみてください。



何かご意見があればご記入下さい。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

◎国籍 (       ) 出身地 (       ) 都道府県                      ◎性別 (男・女)

◎年齢 (10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代～)

ご協力ありがとうございました。